

Change
Makers

Change
Makers

ESD



TOKYO 2020
応援プログラム



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

「持続可能な社会の創り手」を育てるための

FTC チェンジメーカー 教育プログラム ガイドブック

Change
Makers

Change
Makers

Change
Makers

Change
Makers

Change
Makers

CHANGE
MAKERS
教育プログラム

FREE THE
CHILDREN



日本郵便 年賀寄付金

Welcome to 「FTC チェンジメーカー教育プログラム」

2020年より施行された「新学習指導要領」に、これからの学校教育には『生徒（児童）が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる』ということが求められる』という文言が盛り込まれています。

そうした子どもや若者を育てようと努力されている、学校の先生をはじめ、指導者的立場の方々の日々のお働きに心から敬意を表するとともに、子どもと接するすべての皆さんを応援したいという想いから、「チェンジメーカー教育プログラム」は生まれました。また、私たちフリー・ザ・チルドレンが目指すビジョンは、「世界のすべての人々が『誰一人取り残されることなく』、心もからだも健康で、自身の夢や希望を実現でき、国籍・宗教・年齢・性別・文化、障害に関係なく、互いを認め合い、互いに勇気づける多様性のある社会」です。

そんな社会を、教育的現場から実現することをめざし多くの方に本プログラムをご活用いただき、皆さんと共に良い世界のために歩いていけたらと願っています。



子どもが何らかの社会問題に目を向けて活動を始めようとしたとき、まだ早すぎると言って止めるようなことはありませんか。そんな時は、どうか止めないでください。社会を素直にみられる子どもだからこそ、できることが沢山あるのです。

12歳で団体を設立して以来、これまで世界中の子どもたちと共に活動続け、団体として1,000校以上の学校を建て、20万人以上の子どもたちが教育の機会を持てるようになりました。子どもたちには社会を変え、未来をつくる力があります。その芽を伸ばすのは周りのおとなたちです。

フリー・ザ・チルドレンの創設者・代表

クレイグ・キールバーガー / Craig Kielburger

1982年生まれ。カナダ・オンタリオ出身。トロント大学で平和紛争学を修得後、ニューヨーク大学シュールリック・ビジネススクールにてエグゼクティブMBAコースを史上最年少で修了。2006年世界の子供も賞、2007年すぐれた社会起業家に送られるスコールアワードを受賞。過去3回、ノーベル平和賞にノミネート。



フリー・ザ・チルドレンの理念である「子どもは助けられるだけの存在ではなく、自身が変化を起こす担い手である。」という言葉に、私が子どもの頃に出会っていれば人生が変わっていたと思うことがよくあります。日本では和を重んじるばかりに、時として、問題に対して声を上げることがはばかられます。私自身、中高生の頃、自分が社会問題に取り組めるなんて思いもよりませんでした。しかし、活動を通じて日本の多くの子どもが、世界の子どものために立ち上がる姿を見るにつけ、子どもの持つ力に感動しています。子どもの力を多くの方と共に育てていけたら嬉しいです。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 代表理事

中島 早苗 / Sanae Nakajima

学生時代に環境保護団体に所属し活動を始めたことから社会問題に取り組むようになる。アパレル会社勤務を経て1997年に渡米しNGOでのインターン中にFreeTheChildrenを知り理念に共感し、帰国後の1999年に日本支部を設立。以後、活動に従事。訳書に「キッズパワーが世界を変える」、著書に「フィリピン少女ピア」（共に大月書店刊）。2007年国際ソロプチミストより「青少年指導者育成賞」受賞。

目次

認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの紹介	4
WE Change the World! (FTC チェンジメーカー教育プログラム 概要)	5
FTC チェンジメーカー教育プログラム ガイドブックの使い方	9
FTC チェンジメーカー教育プログラムと新指導要領.....	10
子ども達を取り巻く環境と社会から求められる能力	11
FTC チェンジメーカー教育プログラムの4STEPS	14
STEP 0 セーフスペースづくり	16
STEP 1 取り組みたい社会問題を決めよう	17
STEP 1-A 社会とのつながりを考える.....	17
STEP 1-B 地域社会・グローバル社会の問題を考える	19
STEP 1-C SDGs(持続可能な開発目標)の理解.....	21
STEP 1-D 子どもの権利条約を考える	24
STEP 2 目標を決めてアクションプランを立てよう	25
STEP 2-A チームビルディング	26
STEP 2-B アクションの種類.....	27
STEP 2-C アクションを考える.....	28
アクションキット.....	30
STEP 3 TAKE ACTION!アクションを起こそう	33
STEP 3-A アクションを起こすコツと注意点を知る.....	33
STEP 4 アクションを振り返り、報告・お祝いしよう	35
STEP 4-A 振り返りをする	35
STEP 4-B Change Maker Fes に参加する	37
活動証明書の発行	38
チェンジメーカーとなった先輩たち	39
先生方の声	40
出前授業のご案内.....	41

認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの紹介

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ) は、1995 年に当時 12 歳のカナダ人クレイグ・キールバーガー少年によって貧困や搾取などの過酷な環境から子どもを解放することを目的にカナダで設立された「Free The Children (2016 年 8 月に WE Charity に改名)」を母体として 1999 年から日本で活動を始めた NPO です。

きっかけは新聞記事

1995 年、カナダに住む 12 歳のクレイグは学校に行く前にマンガを読もうと新聞を手にしたところ、ある記事に目が留まりました。

「児童労働の廃絶を訴えていた 12 歳のパキスタン少年、射殺！」

パキスタン人のイクバル・マシーは、とても貧しい家庭の出身で 4 歳のとき、両親から引き離され絨毯工場に売られてしまった。1 日 10 時間以上の労働を強いられていたが、工場から脱出でき、NGO の助けで児童労働反対をうったえる活動家として世界をまわっていた。しかし、母国に戻ったとき、何者かに殺害された。



クレイグは、同年のイクバルの死や、世界に奴隷のように働かされている子どもがいることにショックを受けました。そして、同じ子どもの問題なら、自分たち子どもで取組もうと「Free The Children (FTC)」を設立しました。その後クレイグは児童労働の現状を学ぶため中学 1 年生になると南アジア 5 か国をまわる 50 日間の旅に出ま



した。そこで、ノーベル平和賞を受賞したマザーテレサやカイラシュ氏に出会いました。クレイグの創造をはるかに超える過酷な環境で働く子どもたちのことを世界に伝えるため、カナダに帰国後、旅の体験記を本にまとめたり、スピーチをしたりして、世界をまわるようになりました。

現在までに、フリー・ザ・チルドレン (WE Charity) の活動を通じて、開発途上国 10 か国において 1000 校以上の学校が建設され、毎日 20 万人もの子どもが教育を受けられるようになり、井戸などの建設を通じて 100 万人以上の人々がきれいな水を手にすることができるようになりました。また、300 万人以上もの子どもたちが活動に関わるようになりました。こういった活動が世界的に評価され、創設者のクレイグと団体は今まで 3 回以上ノーベル平和賞にノミネートされています。

これまでの日本での成果

- 団体を設立して 20 年。国内外で青少年の健全育成に寄与しています。
- 日本では延べ 2 万人以上の若者が活動に参加しています。
- 卒業生の多くがチェンジメーカーとして様々な業界で活躍しています。
- 毎年開催の宿泊研修参加者の 95% が「新しい自分になれた」と実感しています。
- 年間 100 校以上で出前授業を実施し、受講生徒の 47.1% が「自分にも社会に対して何かアクションを起こすことができる」と考えが変化したと回答しています。
- 10 冊以上の日本の教科書・教材に活動が掲載されています。

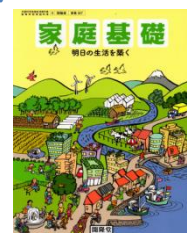
教科書掲載



中学 公民
【清水書院】
(2016 年～)



ONE WORLD
【教育出版】
(2016 年～)



家庭基礎
【開隆堂出版】
(2016 年～)

WE Change the World!

(FTC チェンジメーカー 教育プログラム 概要)



FTC チェンジメーカー教育プログラム とは

子ども・若者（児童・生徒、学習者と明記の場合も）一人ひとりが社会問題を自分ごととして捉え、問題解決に向けた行動を起こせるように FTCJ が開発したサービス・ラーニング教育プログラムです。

FTC チェンジメーカー教育プログラムは、カナダで開発された“WE Schools”に基づき、これまでの日本での活動経験や他国での実践事例を加味して、グローバル・シティズンシップ、子どもの社会参画、アクティブ・ラーニングといった要素を取り入れた日本向けの新しい教育プログラムです。FTC チェンジメーカー教育プログラムの基となっている“WE Schools”はサービス・ラーニング及び SEL (Social Emotional Learning の略。社会性を育み感情のコントロールを学ぶ教育手法) を土台に開発されたもので、現在カナダ、アメリカ、イギリスなどの学校 18,000 校以上に導入され、教育現場で取り組まれています。※SEL については FTCJ 内 FTC チェンジメーカー教育プログラムのウェブサイトをご覧ください。



▼SDGsを学ぶヒントがここにあります！

FTC チェンジメーカー教育プログラムは、SDGs（持続可能な開発目標）と紐づけて社会問題を紹介しており、実践的に SDGs を学べるヒントがたくさん詰まっています。新学習指導要領で掲げられた「持続可能な社会の創り手」の育成に役立つ教育プログラムです。

コラム サービス・ラーニング とは ①

近年、アクティブ・ラーニングを学校の授業で取り入れる動きが活発になっており、その流れの中でサービス・ラーニングを導入する学校、特に、大学では正規科目として実施するところが増えています。

ここでは、本プログラム監修協力いただいている社会科教育学専門の筑波大学唐木清志教授の著書「子どもの社会参加と社会科教育－日本型サービス・ラーニングの構想－」（2008 年、東洋館出版社刊）を参照しながらサービス・ラーニングを紐解いていきます。

サービス・ラーニングとは、「地域社会の課題解決を目指した社会的活動（サービス活動）に子どもを積極的に関与させ、子どもの市民性（シティズンシップ）を発達させることをねらいとした1つの教育方法」です。

アメリカでは 1990 年に「国家及びコミュニティ・サービス法」が成立して以来、全国各地の幼稚園・小学校・中学校・高校・大学で様々なサービス・ラーニング実践が行われています。そこでは、サービス・ラーニングを通じて、生徒は参加民主主義を促進でき、重要な社会問題に関心を持ち、問題解決に向けて行動を起こす際に必要となる知識・技能・態度を身に付けることができると考えられています。

アメリカ社会科の研究者アイオワ大学のウェイドによると、サービス・ラーニングの目標は三つの観点「学問的・知的発達」「社会的・個人的発達」「政治的有効性と参加」から示すことができるといいます。

サービス・ラーニングは社会科や国語科のような教科や領域を指すのではなく、体験学習や問題解決学習と同じように、1つの教育方法を指します。そのため、すべての教科や領域の学習にとって非常に便利な教育方法で、とりわけ社会的事象を教育内容として取り扱う社会科や道徳科、総合学習では利用価値が高いといわれています。

では、具体的にどのようなサービス・ラーニングの活動を地域社会で展開できるのか、プロジェクトの例や各科目のアイデア例を以下に示します。

コラム サービス・ラーニングとは②

▼各教科におけるサービス・ラーニングのアイデア例：

国語科 ・多文化的内容を有する児童書を分析して、児童書に刷り込まれたステレオタイプを明確にする

- ・労働者へインタビューし、職業ビデオを製作する
- ・様々な問題を抱えた子どものために絵本や小説を執筆する

数学科 ・食料貯蔵庫に缶詰を集め、表にまとめる→地域調査(NPO と連携)→子ども食堂への配布実施→振り返り(人気だった商品の理由、レポート作成、地域政治への提言)

理科 ・学校の廃棄物の科学的調査を行い削減を呼びかける

- ・気候と景観を学習し、地域社会で土壌調査を行う
- ・悪天候が及ぼす危険性を分析し、安全策を提案する

社会科 ・現存する歴史遺産(建物や行事等)を研究する

- ・投票データから棄権者と回想の関係を明らかにする
- ・移民者と共にサービス活動に従事する

芸術科 ・地域社会でプラスのイメージを喚起する壁画やポスターを書く

- ・高齢者の好きな音楽を調査し、演奏する
- ・他者理解をテーマとした脚本を作り、演劇を上演する

保健体育科 ・特別オリンピックの参加者を調べ、体験や支援をする

- ・小学生のための夏休みプログラムを企画・実施する
- ・地域のチャリティーウォークを企画、運営する

外国語科 ・英語を第二言語とする人々に対し地域情報を集め、パンフレットなどにまとめる

- ・英語を第二言語とする人々を学校に招待し、文化的接触を図る

家庭科 ・栄養学教育の一環として、栄養不足な食事をとっている人々を支援する

- ・応急措置の技能を身に付け、小学生に教える
- ・健康増進イベントを実施するために企画を行い、資金を調達し、実施する

コンピューター ・学校の PC 室で高齢者にコンピューター教室を開催する

技術科 ・障害のある人のためにスロープを建設する

- ・低所得高齢者の家を修理する
- ・低所得高齢者の電気器具や車を修理する

科目でなく、カテゴリー別に分類することで、科目横断的に、もしくは総合の授業において、地域の課題に取り組むこともできます。

カテゴリー：教育(学校への準備、教育支援など)、安全、衣食住、環境

※引用・参照：子どもの社会参加と社会科教育ー日本型サービス・ラーニングの構想ー(唐木清志著 /2008 年 /東洋館出版社刊)

なぜ、いま「FTC チェンジメーカー教育プログラム」なのか

国際社会が合意した SDGs(持続可能な開発目標)を達成するためには、各国政府の政策に頼るだけでなく、立場や年代に関わらず人々が協力し、大きな変化をもたらしていく必要があります。私たちフリー・ザ・チルドレンは、特に子どもや若者に影響を与える問題については、子どもや若者自身がその問題について知り、学び、解決に向けて行動を起こすことに意義があり、重要だと考えます。

しかし、財団法人日本青少年研究所による調査「高校生の心と体の健康に関する調査(2011年3月)」では、68.3%の日本の高校生が「自分が参加しても社会は変わらない」と考えており、内閣府の調査では、「自分自身に満足している」と回答した日本の15-25歳は、アメリカ86.0%、イギリス83.1%、に対し、45.8%と自己肯定感の低さが伺えます。また、近年10代以下の日本の子どもの自殺率は各年代の中で唯一増加傾向にあり、子どもの尊厳や権利が守られているとは言い難い状況です。

そこで私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパン(FTCJ)は、子どもや若者の自己肯定感や多様性を育む教材の必要性を感じ、「FTC チェンジメーカー教育プログラム」を開発しました。本プログラムでは、「すべての子どもは生まれたときから一人の人間として尊重されるべき尊い存在である」ことや、人はみな違っているから素晴らしいこと、違いがあるからこそお互いに補い合い、協力しあうことでより豊かな社会になることを伝えます。さらに、学習者である子どもや若者に、「自分が関われば、社会を変えることができる」という自己効力感を育てます。本プログラムの最もユニークな点は、多様な考えや価値観に触れながら、自分自身を見つめ、自分の得意なこと、好きなことを活かしながらアクションを起こすきっかけを提供していくことです。

「FTC チェンジメーカー教育プログラム」の4ステップ

FTC チェンジメーカー教育プログラムは、サービス・ラーニングを4つのステップで実践することができます。

【4つのステップ】

- 1 取り組みたい問題を精査し理解を深める
- 2 目標を決めてアクションプランを立てる
- 3 実際にアクションを起こす
- 4 アクションをふり返り、報告・お祝いをする

FTC チェンジメーカー教育プログラムの4つのステップを通じて、学習者である子どもや若者は、国内外にある社会問題を知り、それらの社会問題が自分と関係していることに気づきます。そうすることで、子どもや若者は社会問題に向き合い、解決に向けた変化を起こせると感じることができます。最終的に子どもや若者は、得意なことや好きなことを用いたソーシャルアクションを通じて変化を起こすことを目指します。

また、本プログラムは全体を通して、「アクティブ・ラーニング形式」で学ぶものになっています。地域社会の課題を解決するために、児童・生徒が持つ学問的な技能や知識を活用できる場面を保证するのがサービス・ラーニング教育プログラムの特徴です。

「FTC チェンジメーカー教育プログラム」を使うには・・・

FTC チェンジメーカー教育プログラムを授業などで実践するためには、まずは、FTCJのウェブページ内にある「FTC チェンジメーカー教育プログラム特設ページ」<https://ftcj.org/we-movement/changemakerseducationprogram> からご登録ください。登録すると、最低ひとつの地域社会(ローカル)と地球規模(グローバル)の社会問題に対して向き合い、解決に向けたアクションを起こせるようにプログラムされた様々な情報や教材に無料でアクセスしダウンロードすることができます。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ) 内にある FTC チェンジメーカー教育プログラムの特設サイトでは、様々なアクションや授業実施のアイデア・活動機会の情報を得られ、他の地域・学校・青少年グループとの情報交換を行うとともに、活動事例及び活動成果を見ることができます。さらに、子どもや若者の活動成果を祝うライブイベント「チェンジメーカーフェス」への参加権を得ることもできます。

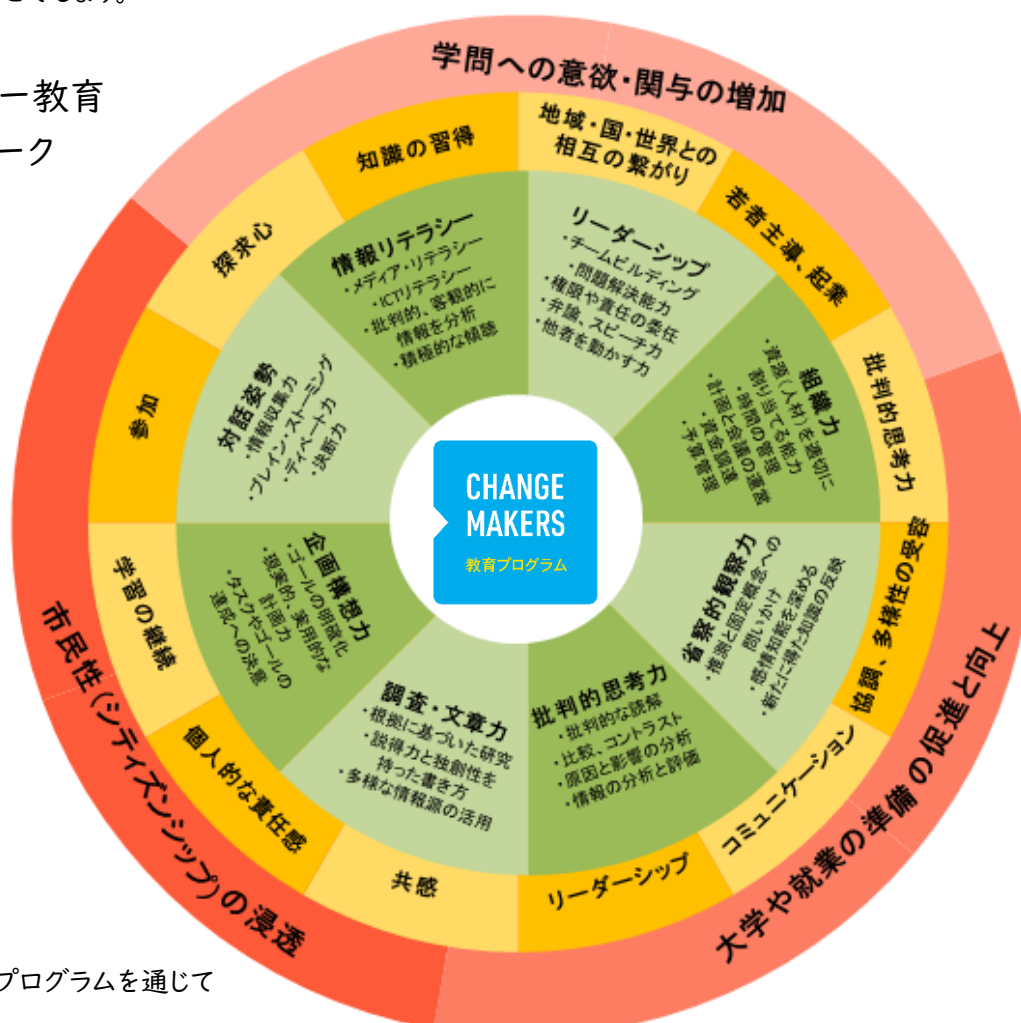
アクションを起こした成果に対して、振り返りを行う際に使用していただくワークシートは、そのままポートフォリオとしてもご活用いただける他、FTC チェンジメーカー教育プログラム に成果報告を行うことで、アクションの活動証明書が発行され、ユニークな活動実績としてご使用いただけます。

FTC チェンジメーカー教育プログラムを通じて得られるスキル

学習者（子ども・若者）は無力感や無関心の状態から、自分に関わることで社会に変化を起こし、貢献できると実感することで、何事にも挑戦しようという気持ちや力を育むことができます。具体的には FTC チェンジメーカー教育プログラムを通じて「学ぶ意欲や機会の増加」「大学進学や就職への準備の向上」「積極的社会参加の浸透」の3分野に向けて、8 つのスキルを養えるようデザインされています。（下記の図表をご覧ください）これから何を大切に、どう社会とかわかりを持ち、どのような人生にするか」といったキャリア教育としても本プログラムを活用いただけることでしょう。

▼FTC チェンジメーカー教育プログラム フレームワーク (枠組み)

- 成果・効果
- ゴール・目標
- スキル・力



◇FTC チェンジメーカー教育プログラムを通じて

養える8つのスキル(力)：

Argument Formation 対話姿勢、Information Literacy 情報リテラシー、Leadership リーダーシップ、Organization 組織力、Action Planning 企画構想力、Research and Writing 調査研究・文章力、Critical Thinking 批判的思考力(クリティカルシンキング)、Reflection 省察的観察力(振り返りを活かす力)

FTC チェンジメーカー教育プログラム ガイドブックの使い方

このガイドブックは、学校や課外活動でサービス・ラーニングプログラムを進めるにあたり、FTC チェンジメーカー教育プログラム教材(WE ラーニングキット)をどのように使うかに関する説明書です。授業での導入方法や進め方、学習者(児童や生徒)が社会問題を解決するために何らかのアクションを起こすためのヒントや、実践的に活用できる授業案が入っています。

全てのプログラムは無料でだれもが利用することができ、指導者向けの手引き、授業用資料などが用意されていますので、どうぞご活用ください。

ガイドブック(本書)



WE教育プログラムアクティビティ STEP1				
アクティビティ番号	手引き書	指導案 例	スライド資料 ワークシート ワーク動画	参考動画
0 セーフスペース				
1.A1 地域社会について考える			ワークシート	—
1.B1 国際クイズの星				
1.B2 ワールドマップ				
1.B3 国際問題：児童労働				
1.B4 教育の重要性への理解	作成中			
1.B5 国際問題：貧困	作成中			
1.B6 国際コンパス				
1.C1 ペアを捜せ！SDGと問題マッチング				
1.C2 2時間SDGsを捜せ				
1.C3 世界の夢×SDGsを捜せ				
1.D1 子どもにまつわる社会問題を捜せ！	作成中			
1.D2 少年兵と子どもの権利条約		—	スライド ワークシート 子どもの権利一覧	ミニチュールスピーチ
1.D3 子どもの権利条約を学ぶ				ミニチュールスピーチ
WE教育プログラムアクティビティ STEP2				
アクティビティ番号	手引き書	指導案 例	ワークシート スライド資料	参考動画
2.A1 チームビルディングショー・タワー				
2.A2 ナンバータッチ	—			
2.B1 インスピレーションカードゲーム				
2.C1 GRI+Issue+Change			ワークシート	
2.C2 S.M.A.R.T.目標を知らう！				
2.C3 アクション実践5ステップ！		—		アクション5step

【FTC チェンジメーカー教育プログラム参加の特典】

- ・「FTC チェンジメーカー教育プログラム」の教材(ガイドブック・アクティビティブック・指導案)の無料ダウンロード
- ・長期休みに開催される「教材体験会」に優先的にご招待
- ・子どもや若者の活動成果を祝うライブイベント「Change Makers Fes」へ活動報告をすることで参加権を得られる
- ・活動報告をすると、希望する学校・団体に活動証明書を発行可能
- ・授業実施のアイデア・活動機会の情報を不定期に送付
- ・活動事例及び活動成果を不定期にご案内
- ・当団体のFCTチェンジメーカー教育担当チームがコーディネーターとして、みなさんの学習・活動状況にあわせて
様々な情報や素材を提供するなど、活動をさまざまにサポートします。

ダウンロードの際には、FCT チェンジメーカー登録完了後にお送りした、パスワードが必要です。
紛失防止を兼ねて、こちらに記入ください。

パスワード：

FTC チェンジメーカー教育プログラムを通じて、多くの子どもや若者が地域と世界の課題に向き合い、解決に向けて変化を起こして欲しいと願っています。そのためにともに歩んでいきましょう！

FTC チェンジメーカー教育プログラム と新学習指導要領

新学習指導要領では、「育成を目指す資質・能力」として下記の 3 つの柱が打ち出されました。

- ①実際の生活や社会で生き、働くための「知識及び技能」
- ②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」
- ③学んだことを人生や社会にいかそうとする「学びに向かう力、人間性等」

新学習指導要領では以下の表現で記載されています。

———（新学習指導要領案／p4 総則より引用）———

…児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

- 1. 「知識及び技能が習得されるようにすること。」
- 2. 「思考力、判断力、表現力等を育成すること。」
- 3. 「学びに向かう力、人間性等を涵養すること。」

（新学習指導要領案／p4 総則より引用）

教科の目標や内容は、この 3 つの柱に基づいて再整理がされることになります。新学習指導要領で強調されているこれらの 3 つの育成すべき資質や能力は、P8 で示した「FTC チェンジメーカー教育プログラム」が目指す成果・効果、ゴール、スキル（力）と非常にリンクしており、FTC チェンジメーカー教育プログラムはこれからの教育に大変有益であり、有効でしょう。

前述された資質・能力を育成するために、新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程の実現」が理念として掲げられました。「社会に開かれた教育課程」とは、学校教育を通じて、子どもたちがよりよい社会や豊かな人生を自ら創れるように、社会や世界とつながりながら力を育てていこう、ということです。変化する社会の中で、学校教育が学校の中だけに閉じたものではなく、家庭や地域とも連携して子どもの力を育もうとする方向性とその実現の重要性が、学習指導要領全体に貫かれています。

—（新学習指導要領案／p2 前文より引用）———

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

□各学校における「カリキュラム・マネジメント」の確立に向けて

文部科学省が新時代の教育を支え、学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策と位置付けている「カリキュラム・マネジメント」とはどのようなものなのでしょうか。「答申」では、各学校には、学習指導要領を受け止めつつ、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくことが求められる。これが「カリキュラム・マネジメント」だとしています。

答申では、具体的に、**教科横断的な視点、子どもや地域の現状にあわせて改善し続けること、外部の資源を効果的に活用すること**、の3つの側面から「カリキュラム・マネジメント」を捉えています。

- 各教科等の教育内容を**相互の関係で捉え**、学校教育目標を踏まえた**教科等横断的な視点**で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- 教育内容の質の向上に向けて、**子どもたちの姿や地域の現状等**に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る**一連のPDCAサイクルを確立**すること。
- 教育内容と、教育活動に**必要な人的・物的資源等**を、地域等の**外部の資源も含めて活用**しながら効果的に組み合わせること。

(答申 p23-24 より引用)

各学校では、カリキュラム・マネジメントとして学校教育全体を通して、育成すべき学力や資質・能力との相関・関連を図りつつ、新学習指導要領で掲げられた「持続可能な社会の創り手」のための教育として、「FTC チェンジメーカー教育プログラム」をご活用いただけますと幸いです。

□FTC チェンジメーカー教育プログラムと学習指導要領との関連性

各科目でどのように導入していけばよいかのヒントとして、一覧表をご用意しています。「FTC チェンジメーカー教育プログラム」は、あらゆる教科で学習活動を展開することができます。小学校低学年から高校まで、全16ページの資料です。

本ガイドブックとの関連だけでなく、各教科で、国際理解教育や人権教育の授業を実施するにあたり参考になるアイデアが数多く記載されています。「FTC チェンジメーカー教育プログラム」のウェブサイトよりダウンロードいただけますので、どうぞご活用ください。

文部科学省学習指導要領と国際理解・人権教育関連の関連性			
・小学校学習指導要領について			
教科	領域	学習指導要領	関連性
国語	1. 国語	国語の学習活動を通して、国語の基礎的な能力を身に付け、国語の表現力や読解力を高める。	国語の学習活動を通して、国語の基礎的な能力を身に付け、国語の表現力や読解力を高める。
	2. 外国語	外国語の学習活動を通して、外国語の基礎的な能力を身に付け、外国語の表現力や読解力を高める。	外国語の学習活動を通して、外国語の基礎的な能力を身に付け、外国語の表現力や読解力を高める。
算数・数学	1. 算数	算数の学習活動を通して、算数の基礎的な能力を身に付け、算数の表現力や読解力を高める。	算数の学習活動を通して、算数の基礎的な能力を身に付け、算数の表現力や読解力を高める。
	2. 数学	数学の学習活動を通して、数学の基礎的な能力を身に付け、数学の表現力や読解力を高める。	数学の学習活動を通して、数学の基礎的な能力を身に付け、数学の表現力や読解力を高める。
理科	1. 理科	理科の学習活動を通して、理科の基礎的な能力を身に付け、理科の表現力や読解力を高める。	理科の学習活動を通して、理科の基礎的な能力を身に付け、理科の表現力や読解力を高める。
	2. 社会	社会の学習活動を通して、社会の基礎的な能力を身に付け、社会の表現力や読解力を高める。	社会の学習活動を通して、社会の基礎的な能力を身に付け、社会の表現力や読解力を高める。
道徳	1. 道徳	道徳の学習活動を通して、道徳の基礎的な能力を身に付け、道徳の表現力や読解力を高める。	道徳の学習活動を通して、道徳の基礎的な能力を身に付け、道徳の表現力や読解力を高める。
	2. 外国語	外国語の学習活動を通して、外国語の基礎的な能力を身に付け、外国語の表現力や読解力を高める。	外国語の学習活動を通して、外国語の基礎的な能力を身に付け、外国語の表現力や読解力を高める。
体育・保健・音楽・美術	1. 体育・保健	体育・保健の学習活動を通して、体育・保健の基礎的な能力を身に付け、体育・保健の表現力や読解力を高める。	体育・保健の学習活動を通して、体育・保健の基礎的な能力を身に付け、体育・保健の表現力や読解力を高める。
	2. 音楽・美術	音楽・美術の学習活動を通して、音楽・美術の基礎的な能力を身に付け、音楽・美術の表現力や読解力を高める。	音楽・美術の学習活動を通して、音楽・美術の基礎的な能力を身に付け、音楽・美術の表現力や読解力を高める。

子ども達を取り巻く環境変化と社会から求められる能力

コラム

子ども達を取り巻く環境は、日々著しく変化しています。「教育改革による大学入試・受験改革」や、「AI をはじめとする第四次産業革命」は待ったなしで訪れます。2006 年に経済産業省が「社会人基礎力」という社会で求められる能力の具体像を示しましたが、それに加えて今日では、「非認知能力」や「生きる力」といった数値では測ることのできない能力も求められています。さらに、グローバル・シティズンシップとして、国際社会で合意された「SDGs」への理解と行動も求められています。

以下に、子どもを取り巻く環境変化と、社会から求められている能力について、いくつかキーワードをあげてみました。どの要素も、未来がどんな状況になっても、よい人生を切り拓けるようになってほしいという願いが根本にあることは間違いありません。子ども達一人ひとりが個々の能力を発揮できるよう「FTC チェンジメーカー教育プログラム」をご活用いただき、子どもや若者の力を共に育み歩んでいけることを願っています。

□教育改革～大学入試・受験改革～

グローバル化や技術革新が進み、社会で求められるスキルや力も変化し、時代を拓く人材育成を見据え、30 年ぶりの大改革となる大学入試改革が 2020 年度から行われます。新しい入試に対応でき、世界に通用する論理的思考力や表現力、コミュニケーション能力などが身につけられるとして注目されているのが、「国際バカロレア International Baccalaureate」(IB)という教育プログラムです。IB は、国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する世界共通の大学入試資格とそれにつながる小・中・高校生の教育プログラムのことで、国際的な視野を持った人材を育成するため、生徒の年齢に応じて 4 つの教育プログラムのいずれかを導入している学校が国際バカロレア認定校とされています。

これからの大学入試は決まった答えのない問題が出題され、理論的に考えをまとめる能力が問われます。「グローバル化」と「知識基礎社会」に備えるために、「五つの力」と「基礎となる十二の態度」が国際バカロレアプログラムの概要です。学校でも教科を教えるだけでなく、人間としての能力や態度を重視し「考える教育」の取り組みが始まりました。それがアクティブ・ラーニングです。偏差値重視の入試制度から、多様な答えがある問題に取り組む傾向になりつつあります。

□AI をはじめとする第四次産業革命

2014 年英国デロイト社は、英国の仕事のうち 35%が、今後 20 年間でロボットに置き換えられる可能性がある」と報告しました。さらに、オックスフォード大学の研究報告では今後 10～20 年ほどの間に IT 化の影響で 702 の職業のうち約半分が失われる可能性がある」と述べています。このように、IT の進化によって、人工知能は人間の仕事を次々と奪い取っていくのではないかと心配する声が増しに強くなっています。子ども達は、このような状態の中で就職することになるのです。

もちろん新しい職業がこれから誕生することもあります。そう考えると、それほど心配する必要が無いのかもしれませんが、しかし、パソコンにできない創造すること、思いやること、手作業で作ること等、人間本来の特色を鍛え育てることが重要になってくることは間違いありません。

□生きる力 (引用・参照:文部科学省ホームページ)

文部科学省は、新学習指導要領で、「変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに、『確かな学力』『豊かな人間性』『健康と体力』の3つの要素「知・徳・体」をバランスよく育て生きる力を育むことが大切」だと謳っています。学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となって明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれが思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。2020 年度から小学校を皮切りとしていよいよ開始する新しい「学習指導要領」には、そうした願いが込められています。

□非認知能力

「非認知能力」とは、経済学や心理学で使われる言葉で、IQ や学力テストなどの認知能力以外の能力を広く捉えるための言葉です。パーソナリティや対人能力ともいえるでしょう。具体的には、下記の要素が挙げられます。

自己認識 (Self-perceptions) : 自分に対する自信がある、やり抜く力がある

意欲 (Motivation) : やる気がある、意欲的である

忍耐力 (Perseverance) : 忍耐強い、粘り強い、根気がある、気概がある

自制心 (Self-control) : 意志力が強い、精神力が強い、自制心がある

メタ認知ストラテジー (Metacognitive strategies) : 理解度を把握する、自分の状況を把握する

社会的適正 (Social competencies) : リーダーシップがある、社会性がある

回復力と対処能力 (Resilience and coping) : すぐに立ち直る、うまく対応する

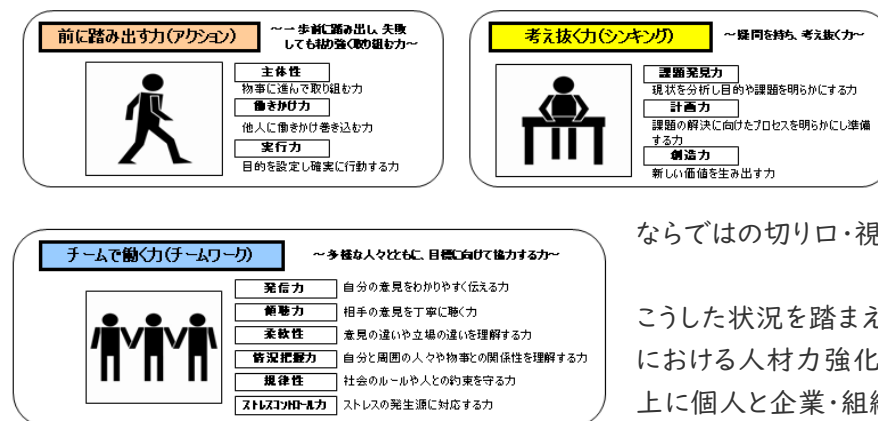
創造性 (Creativity) : 創造性に富む、工夫する

性格的な特性 (Big5) : 神経質、外交的、好奇心が強い、協調性がある、誠実

非認知能力を鍛える手段として、高校生が高齢者にコンピューターの使い方を教えるという社会奉仕活動のように、教室で学んだことを地域社会で問題解決のために生かすような教育やアウトドア活動などが有効であるといわれています。(「学力」の経済学 中室牧子著より引用/ 参照: 国立教育政策研究所)

□社会人基礎力

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の 3 つの能力(12 の能力要素)から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が 2006 年に提唱した能力像です。



「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006年に発表された「社会人基礎力」はむしろその重要性が年々増えています。「人生100年時代」

ならではの切り口・視点が必要となっていました。

こうした状況を踏まえ、2017年に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」では、これまで以上に個人と企業・組織・社会との関わりが長くなる中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる

力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。そこでは、社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を変化させずに、能力を発揮するにあたり、自己を認識してリフレクション(振り返り)しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要であると結論付けています。

(引用: 経済産業省 社会人基礎力 <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>)

※「社会人」を広辞苑で調べると、①社会の一員としての個人。②実社会で活動する人。とあり、子どもから高齢者まであらゆる立場の一個人を表す言葉のようです。しかし、多くの場面では「一定の収入のある働く人」のみを定義しており、排他的な意味合いがあると感じるため、使用には注意が必要だと FTCJ では考えています。

FTC チェンジメーカー教育プログラム の 4STEP

FTC チェンジメーカー教育プログラムは大きく4つのステップに分かれています。児童・生徒（又は学習者）は、このステップを順々に踏むことで、FTC チェンジメーカー教育プログラムに含まれるサービス・ラーニングから知識やスキルを得ることができ、それらの力を最大化することもできます。

STEP 0. セーフスペース（安心できる空間）づくり

学習者が仲間と安心して問題に取り組めるように、自己・他者を理解し多様な意見を尊重する「セーフスペース」づくりのワークショップを指導者が実施する際に役立つ資料をご用意しています。

STEP1. 取り組みたい問題を決めて、調べよう

学習者は、SDGs（持続可能な開発のための目標）に触れながら、地域社会（ローカル）や地球規模（グローバル）の課題に気づき、自分との関係性を見つめていきます。ワークショップを通じて、取り組みたい社会問題を見つけ、向き合い、詳しく調べ、解決に向けたアクションを考える素地をつくります。

STEP2. 目標を決めて、アクションプランをたてよう

学習者は、取り組みたい社会問題の解決に向け、どういったアクションを起こせるのか考えます。そのアクションを起こすためにはどんな準備が必要か、そのポイントを学びながら「アクションプラン」を立てていきます。

※社会問題の解決につながるキャンペーンキットをご用意しています。一から計画を立てるのが難しい場合などにご活用ください。

STEP3. TAKE ACTION! アクションを起こそう

学習者は、ステップ2で立てたアクションを実行に移していきます。

※アクション実施の際の注意事項や、記録方法、やりきるためのヒントなどが紹介されています。

STEP4. アクションをふりかえり、報告・お祝いをしよう

学習者は、一連の FTC チェンジメーカー教育プログラムを通じてどのような結果や成果を生み出すことができたのかをふりかえり、報告します。また、協力してくださった方々へのお礼や、一緒にアクションを起こした仲間でお祝いします。

▼FTC チェンジメーカー教育プログラムサイトへの報告も忘れずに！

ご報告いただくと・・・

1. アクションを起こした子ども達を祝うライブイベント「チェンジメーカーフェス」への参加権が得られます。
2. 希望者には、活動証明書を発行いたします。
3. 承諾者には、ブログなどを通じて WE Schools 活動事例集に収めたみなさんのアクションをご紹介します。

FTC チェンジメーカー教育プログラム アクティビティとの連動



このマークの横に記載している番号がアクティビティの番号になります。

各アクティビティに必要なスライド資料やワークシートは FTC チェンジメーカー教育プログラムの WEB サイトにおいて、
無料でダウンロードいただけます。

STEP 0 ～ STEP 4 の各アクティビティの★マークで実施の判断基準を設けています。

★★★★★ 必須アクティビティ

★★★★ 重要アクティビティ

★★★ アクティビティ（丁寧に進める際にお勧め）

★★ アクティビティ（丁寧に進め、単元に余裕がある場合にお勧め）

★ アクティビティ（今まで授業で取り上げていない場合、実施推奨）

「FTC チェンジメーカー教育プログラム」では、基本的に、学習者を子どもや若者／児童・生徒とし、指導者向けの手引書となっていますが、学習者の対象の幅を広げ、おとなを対象にしてご活用いただくこともできます。

また、学習者を、「子どもや若者」または、「児童・生徒」と表記したり、指導者を「先生」または「教育者」と表記されたりと、アクティビティによって表現に違いがございますことご了承ください。

アクティビティとは別に、より社会問題を体感する教材は別途有料で販売しておりますのでご活用下さい。

STEP 0^{ゼロ} セーフスペース（安心できる空間）づくり

FTC チェンジメーカー教育プログラムには、児童・生徒（学習者）が社会問題を理解し、解決に向けたアクションを起こしていく過程で、様々なグループディスカッションや意思決定の機会が用意されています。こうした過程においては、仲間と意見を交わすことが数多く予想されます。そこで、そうした時に一人ひとりが安心して意見や疑問を発せられるような「セーフスペース（安心できる空間）」を作ることが重要になります。

こういった空間や環境であれば、誰もが安心して自分の意見や気持ちを表せるのかのガイドラインを学習者自身が考えるのが「セーフスペース」のアクティビティです。このとき、見方や感じ方は人それぞれ違って良いこと、だからこそ対話は重要であることを伝えるとよいでしょう。セーフスペースで作ったガイドラインは、必要があれば見直し、みんなで確認しながらアップデートできることを伝えていきます。

※学習者の状況や関係性に合わせ、導入のヒントとして実施の有無をご判断ください。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・学習者が安心して発言したり、アクションに取り組んだりする環境を整える。
- ・クラス（グループ）の一体感を醸成する。

評価

- ・安心して発言したり、アクションを起こしたりするための要素を想像できるか。
- ・異なる意見や価値観を持った人と理解しあうことの重要性を想像できるか。
- ・異なる意見や価値観を見下したり、ふざけたりせずに参加することができているか。



アクティビティ STEP 0-1 セーフスペース（安心できる空間）づくり

学習者の児童や生徒が、安心して参加し、発言ができるような場づくりをするためのアクティビティです。共に活動に取り組む仲間として、学習者が相互に尊重し、参加し、発言ができるようにするにはどんなガイドライン（約束）があれば良いかを学習者自身が考えます。例えば、発言者の方を向いて話を聞く、無理強いをしない、拒否権がある、ここで話したことは他の場では言わない、などの意見が出されるかもしれません。また、すでにクラス（グループ）にある約束ごとなどと繋げて考えるよう促すなど、多様な決め方が可能です。

STEP I ^{ワン} 取り組みたい社会問題を決めよう

STEP I-A 社会とのつながりを考える(気持ちの醸成へのヒント)

FTC チェンジメーカー教育プログラムを始めるにあたり、指導的な立場にある方は学習者(児童・生徒)に自分たちが属している地域社会に目を向けさせ、世界にも視野を広げられるように促してください。STEP I では、身のまわりの些細なモノであっても、地域や世界と関係していることに気づくことから始めます。どういった関係かを考えることで、学習者は地域社会や世界が抱える様々な問題を身近に感じ、自分ゴトとして捉えられるようになります。

FTC チェンジメーカー教育プログラムは、社会問題の解決に向けたアクションを起こすことにとどまらず、「これから何を大切に、どのように生き、どのようにして平和な社会や実りある自分自身の人生に作りあげるか」といったキャリア教育につながる要素を含んでいます。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・学習者が、自身と地域や世界との繋がりの理解を深める。
- ・相互依存の関係で生活が成り立っていることを理解する。

評価

- ・地域、国、世界の様々な構造についての知識を深めたか。
- ・相互依存と地球規模の繋がりを理解しているか。
- ・地域、世界との繋がりが自分ゴトになっているか。

※社会問題に対して興味関心が低い児童・生徒が多い場合、このプログラムに関心を持ってもらうための内容です。学習者の状況に合わせ、導入のヒントとして実施の有無をご判断ください。



アクティビティ STEP I-A I 地域社会との関わり・グローバル化について考える

地域(ローカル)との繋がりと、世界(グローバル)との繋がりを身近な生活スタイルから考えていきます。当たり前前に存在する自分が生活する地域社会(まち)や国際社会を見つめ、繋がりを実感できるようにします。

—— コラム グローバル人材 ——

独立行政法人 国際協力機構(JICA) イベント「池上彰と考える『グローバル人材とは何か』」(13年9月28日開催)より https://www.jica.go.jp/topics/news/2013/20131010_01.html

- ・日本について客観的な目を持つことに加え、自分とは違う物の見方や考え方をする人がいるという多様性を常に意識することが大切である。
- ・世界に通用する人材として「リベラルアーツ(人間としての教養)」を身に付けることで、即効性はないが人間力につながるのではないか。
- ・グローバル人材とは、生き方そのものを表す。生きていく上で大事な素質や資質を身につけて自分の人生を豊かにし、『自分は世のため人のためになっている。社会の中で生きていく価値があるのだ』という充実感を持つことが大切。(中略) ぜひ、自分の存在は意味があるということを自覚できるような生き方や働き方をしてほしい。それが結局はグローバル人材につながる。

STEP1-B 地域社会・グローバル社会の問題を考える

私たちの身近な存在である地域や、遠い存在と捉えられやすい国際社会は、大小様々な問題を抱えています。相互にかかわる関係性の中で、意見や価値観の違いから対立が起きたり、人権が守られず侵害されたり、自然環境に負荷がかかったりといった社会問題が生じています。それらの問題に、どう一人ひとりが関わっているのか、ということを理解していきます。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・自分と社会や世界とのつながり、地域、国、世界の様々な問題や国同士の相互関連性と相互依存性について理解を深める。
- ・批判的思考力と分析力を向上させる。

評価

- ・自分と社会や世界とのつながりを積極的に捉えようとしているか。
- ・地域、世界の様々な問題や、管理システム、制度、構造についての知識があるか。
- ・相互依存と地球規模の課題と地域的な課題の繋がりを理解しているか。
- ・批判的質問と、批判的分析の能力があるか。



アクティビティ STEP1-B1 問題蜘蛛の巣

学習者は思いつく社会問題を書き出し、社会の繋がりの問題が絡まっていることを視覚的にイメージします。その後、問題解決に向けてアクションを起こす際に、大規模なアクションに取り組むということが素晴らしいわけではなく、どんなことでも問題は繋がっており、自分の興味関心事から取り組む意義を醸成します。



アクティビティ STEP1-B2 ワールドマップ

私たちが住んでいる地域や世界には、どんな人が、どのような暮らしをしているのかを視覚的に理解します。オリンピックのメダル獲得数や、食料消費の割合、小学校卒業率、富の分布などの状況を大陸ごとに比較して学びます。学習者一人ひとりがそれぞれの大陸ごとに生きる人となり、生まれた場所によって環境が違い、貧富の格差があることなどを理解します。



アクティビティ STEP1-B3 国際問題：児童労働

前単元で、「南北問題」や「地域格差」を目の当たりにして、学習者は社会問題の構造をイメージすることができたと思います。乗り越えられない格差により、毎日を生き延びるだけでも大変な貧しい生活を送っている子どもが世界にはたくさんいます。世界の同世代の過酷な環境で働く「児童労働問題」を学習者と一緒に見ていきます。



アクティビティ STEP1-B4 教育を受けられない子どもたち

貧困は、世代を超えて連鎖しやすく、抜け出すためには、子どもへの教育支援が非常に重要です。2000 年代に入ってから、初等教育への就学率はかなり向上しましたが、いまだに 6,400 万人の子どもたちが、小学校に通うことができていません。子ども達が未来へ希望をつなぎ、貧しさから抜け出すために、基礎教育の重要性の認知向上と、支援が必要です。その認識を深めるためのアクティビティです。



アクティビティ STEP1-B5 食の問題を考える

食糧自給率が低く輸入に頼る一方で、一人当たりの食糧廃棄率世界一の日本。国外に目を向けると、世界の飢餓人口は 8 億 2160 万人。9 人に 1 人が飢餓に苦しんでいます。私たちの毎日の暮らしに欠かせない食の問題について考えます。



アクティビティ STEP1-B6 問題コンパス

様々な社会問題をグループ内で整理し、メンバーの中でどのアクションに取り組みたいか、どの問題に興味関心があるかを見つけるアクティビティ。STEP2のアクション計画を立てるにあたり、意見をまとめる際に活用いただけます。

コラム グローバル・シティズンシップ教育の学習目標

年齢別のグローバル・シティズンシップ教育の学習目標として、ユネスコ協会では下記の表を発表しています。地域・国際社会の課題を調べる際に、どこまで伝えるのか指標にしてみてください。3 トピックに分けて学習を進めることができます。

1. 地域、国家、グローバルレベルのシステムと構成
2. 地域、国家、グローバルレベルにおけるコミュニティの連結性に影響する課題
3. 推論、ダイナミクスの基本的理解

テーマ	学習目標			
	就学前及び前期初等教育(5-9歳)	後期初等教育(9-12歳)	前期中等教育(12-15歳)	後期中等教育(15-18+歳)
1. 地域、国家、国際社会の仕組みとその構造への理解を深める	地域環境がどのように構成され、それがどのように広範囲な世界と関連しているのか表現する能力を身に着ける。グローバル シティズンシップという概念を初めて知る。	政府機関の統治構造や、政策決定の過程を理解し、その過程において市民が有している権利や権限を理解する。	国際社会の統治構造が、地域、国家の統治構造にどのように作用しているのかについて議論する能力を身に着ける。グローバルシティズンシップを本格的に学んでいく。	国際社会の統治構造、諸事の決定過程などが、グローバルシティズンシップに与える影響を批判的に分析する能力を身に着ける。
2. 諸問題が、地域や国家、及び国際社会での交流や連結にどのような影響を与えているのかを理解する	地域や国家、国際社会が抱えている課題を学び、その諸課題がどのような繋がりを持って絡み合っているのかを理解する。	国際社会が抱えている諸問題の背景や、それが国家や地域にどのような影響を及ぼしているのかを調べる。	地域や国家、国際社会が抱えている主要問題の根源となっているルーツを調べ、それらがどのような繋がりを持って絡み合い、地域や国際社会にどのような影響を及ぼしているのかを調べる。	国際社会のつながりにおける意思決定が適切であるか、責任と結果はどうなっているのかを、地域や国家ごとに調べ、対策を考える。
3. 通説となっている事柄や、権力構造を検証する能力を身に付ける。	数の異なる情報源を知り、それらを活用しながら物事を調べる能力を身に着ける。	事実と意見、現実とフィクションの違いを理解し、異なる意見や見方があることを理解する。	通説を検証する能力を身に着ける。不平等や権力構造について説明できる能力を身に着ける。	権力構造が、意見の集約、必要なりソースへのアクセス、政策決定や統治にどのような影響を与えているかを批判的に検証する。
4. アイデンティティを理解する。	私たちが普段どのように周囲の環境に適応し、他者と交流しているのかを理解し、自分や他者と向き合う力を身に着ける。	アイデンティティの複合性や、それが他者との関係構築に与えている影響について調べる。	個人としてのアイデンティティと集団としてのアイデンティティを区別し、様々な社会集団があることを理解しつつも、人間社会として有している共通性があることを理解する。	社会集団が異なるアイデンティティを有した他の社会集団とどのように交流し、平和的共存を図っているのかを批判的に検証する。
5. 人々が営む様々なコミュニティが、どのような繋がりを持っているのかを理解する。	複数の異なる社会集団を比較し、差異と共通点を説明する能力を身に着ける。	複数の異なる社会集団の社会的・文化的・法的規範を比較し、差異と共通点を検証する。	違いや多様性を尊重し、自分と異なる個人や社会集団に対する思いやりを持ち、連帯する気持ちを養う。	違いや多様性を尊重し、自分と異なる個人や社会集団に対する思いやりを持ち、連帯する気持ちを養う。
6. 多様性を尊重する。	人には共通性と差異があることを理解し、すべての人が権利と責任を有していることを理解する。	多様な個人や集団と良好な関係を構築する。	多様性をもたらす利点と課題を議論する。	多様な集団や考え方や交わるために必要な価値観や態度、スキルを身に着け、それを活かす。
7. 個人や集団として起こせるアクションを考える。	私たちが暮らす世界を改善するためにアクションを起こす方法を調べる。	個人や集団でアクションを起こすことや、コミュニティで活動することの重要性を議論する。	これまで、地域・国家・国際社会が抱えている問題の解決に際し、個人や集団が起こしてきたアクションがどのような役割を果たしてきたのかを調べる。	市民社会の一員となるためのスキルを身に着け、それを活かす。
8. 倫理的責任を伴った行為について考える。	私たちの選択とアクションが、他者や地球に与える影響や、責任を伴った行動を実施することについて議論する。	社会正義と倫理的責任の概念を学び、毎日の暮らしに活かす方法を考える。	社会正義や倫理的責任がもたらす課題や葛藤、それが個人や集団が起こすアクションに与えている影響について分析する。	社会正義や倫理的責任がもたらす課題や葛藤、差別や不平等に対して、個人や集団でどのようなアクションを起こすか考え、行動する。
9. コミットし、アクションを起こしていく。	市民社会の一員としてコミットすることの重要性と利点を理解する。	主体的にアクションを起こすことができる機会や場を見つける。	主体的にアクションを起こし、公益を促進できるようにするためのスキルを身に着け、それを活かす。	世界をより良くするためのアクションの提案を行い、変革の担い手となる。

領域別・年次別のグローバル・シティズンシップ教育の学習目標(ユネスコ 教育局 2015 年冊子より)

<http://unesdoc.unesco.org/images/0023/002329/232993e.pdf>

Global Citizenship Education TOPICS AND LEARNING OBJECTIVES P31 より抜粋

SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」

2015年9月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える首脳が参加して、MDGs「ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals)」を受け継ぐ2030年までの新たな目標となる「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。

SDGsは、普遍的な平和の強化を追求する人間、地球及び繁栄のための行動計画です。2030年を達成期限とする17のゴールと169のターゲット、その進展を評価するための指標を持つ包括的な目標です。

”地球上の誰ひとり取り残さない(Leave No One Behind)”を誓い、持続可能な世界の実現を目指して、開発途上国のみならず、先進国自身が取り組むべきユニバーサルな目標です。2016年から2030年までの15年間、世界の国々はこの「持続可能な開発目標」の達成に向けて協力しながら取り組んでいくことが重要になります。



▼重要な5要素(5Ps)からなる17のゴール

*People[人間]=世界の貧困をなくす

すべての人の人権が尊重され、尊厳をもって生きることができるようにする。貧困と飢餓を終わらせ、すべての人に質の高い教育が提供され、ジェンダー平等を達成し、水と衛生、健康的な生活を保障されている。

*Prosperity[繁栄]=「つづく経済」をつくる

すべての人が豊かで充実した生活を送れるようにする。自然と調和する経済、社会、技術の進展を確保する。

*Planet[地球]=環境を守り育てる

責任ある消費と生産、天然資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応などを通して、地球を破壊から守る。

*Peace[平和]=仕組みづくり

平和、公正で、恐怖と暴力のない世界。すべての人が参加できる世界を目指す。

*Partnership[協働]=実現のための資金と協力関係づくり

政府、民間セクター、市民社会、国連機関を含む多様な関係者のパートナーシップを組んでゴール達成を目指す。

▼MDGsってなに?なんでSDGsへ?

2000年に国連で採択された「ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)」の達成に向けた努力により、5歳未満で命を落とす子どもが減り、より多くの子どもが学校に通えるようになるなど、多くの前進がありました。国際社会が数値目標を掲げたことが、多くの成果につながってきたのです。しかし達成期限の2015年が近づくにつれ、「平均値」で見る進展の陰に取り残された子どもたちがいることや、格差の拡大等、MDGsではカバーしきれない問題があることもわかってきました。SDGsはそれらの反省を活かし、MDGsには含まれていなかった平和や暴力等の問題、また、近年明らかになってきた格差の拡大や環境問題等に対しても、経済・社会・環境の面から包括的に取り組む目標となっています。

STEP1-C SDGs(持続可能な開発目標)の理解

「このままだと地球も人類もあぶない!」私たちが住む社会や地球は、様々な脅威にさらされています。気候変動、貧困、格差拡大、汚染、野生生物の過剰利用…。そこで、2015 年の国連総会で世界の国々は、2030 年までに貧困を撲滅し、全ての人が平等な機会を与えられ、地球環境を壊さずに、より良い生活をおくるための「グローバル目標」に合意しました。その取り組みの指標とゴールが示されているものが、SDGs(「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」)です。

持続可能な社会の担い手として、子どもや若者を育てるためにも、SDGsの目標を他人事から自分ゴトに捉えられるよう SDGsの理解を進めることは重要です。なぜなら、私たちひとりひとは、SDGs 達成に欠かせないグローバルなコミュニティーの一員だからです。自分の関心の高い目標を見つけ、一人ひとりの行動を促していきましょう。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・地域、国、世界が、様々な問題に対してどのように取り組んできたか理解を深める。
- ・なぜ目標が達成できていないのか、達成すべきなのかを多角的にとらえ、分析力を向上させる。
- ・地域、国、地球単位で、より平和で持続可能な世界を創るためには、一人ひとりの行動が欠かせないことを理解し、責任を持った行動を起こすことが求められていることを理解する。

評価

- ・地域、国、地球規模単位で、より平和で持続可能な世界を創るために、世界共通の目標が立てられ、達成に向け地域・世界が連携して動くべきことを理解しているか。
- ・目標は、公益のために必要なことが包括的に考えられて作られていることを理解しているか。
- ・社会問題が他人事から自分ゴトになっていることが感じられるか。
- ・日々の生活が SDGsをはじめとする地域、世界の課題と繋がっていることを理解し、自分もその問題に関わっているという自覚が醸成されているか。



アクティビティ STEP1-C1 ペアを探せ!SDGs 問題マッチング

SDGsにはどのようなゴールがあるのかを学ぶためのアクティビティです。各ゴールの裏返しである問題を、1つのゴールにつき2つずつ配布し、同じゴールを目指しているペアを見つけます。ペアを探す中で、できるだけ多くの問題に触れることで、SDGsのゴールを理解するだけでなく、なぜ必要なのかを理解できるようにしていきます。



アクティビティ STEP1-C2 24 時間 SDGsを探せ ～SDGsを詳しく調べよう～

SDGsの調べ学習をすることで、社会問題をより包括的に理解することができ、自分の興味がどこにあるかも明確にすることができます。このアクティビティを通して、SDGsと私たちの生活が繋がっていることが分かり、SDGs解決には日々の行動を少し変えることで変化を起こせることを意識することが重要であると認識できるようになります。



アクティビティ STEP1-C3 将来の夢×SDGsを探せ ～キャリア教育の SDGs～

SDGs 達成に向けたアクションは、他人ごとではありません。どんな分野のキャリアも SDGs に関わってくることや、具体的に SDGs 達成に向けどのようなかわりかを持てるかを考えます。また、将来だけでなく、消費者として現時点でどのように SDGs 達成に関われるかを考え、グローバルシティズンシップとしての基礎を育みます。

—— コラム 子どもたちから企業への提言活動 ——

中学 3 年生の子どもたちが、児童労働者が関わっていないチョコレートの製品を作ってほしいと、製菓会社である「森永製菓」の社長へ手紙(嘆願書)を書き、フェアトレードチョコの板チョコが量産されることになりました。その後、残念ながら値段が高いことが理由で売上げが伸びず、商品はなくなってしまいました。森永ダースを買くと、企業が児童労働廃絶活動を行っている2つの NGO に寄付を行う、という仕組みに生まれ変わり、現在に至っています。(認定 NPO 法人 ACE より)



子ども向け SDGs 冊子の紹介



未来を担う子どもたちに、今世界がどんな問題に直面しているかを知り、自分たちの生活との関連や、目標を達成するために一人ひとりにできることを考えてもらうきっかけに。

専門的な言葉も丁寧に説明されていて、子どもだけでなくおとなにとってもわかりやすい内容になっています。

検索・ダウンロード: [「私たちが目指す世界」](#)

※原作はラテンアメリカの NGO、日本語版はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、監訳は 10 の NGO や国際機関が協力して制作しました。

SDGs に関する FTCJ のウェブページや動画も要チェック!

・フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの SDGs に関するウェブページ:

<https://ftcj.org/we-movement/sdgs>

・フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの SDGs に関する動画

①SDGs とインドの子ども達:

<https://www.youtube.com/watch?v=IAqTTFqyKNO>

②インドの貧困と子ども達(みんなでつくる連動講座):

<https://www.youtube.com/watch?v=XwWKfAl5Mqk>



STEP1-D 子どもの権利条約を考える

「権利が守られていない子ども」と聞くと、開発途上国などにいる貧困や紛争に直面する子どものことを、まず最初に思い浮かべる人が多いと思います。しかし、日本でも子どもの権利が守られていない事例は多数報告されています。いじめや虐待など暴力にさらされている子ども、貧困に直面している子ども、自分に関わることにの意見を聞いてもらえない子ども、少数派であることで差別をされている子どもなど、子どもの権利が守られていないケースなど。

貧困は、もはや世界のどこかの遠い貧しい地域だけの問題ではありません。日本の子どもの7人に1人が相対的貧困状態に置かれています。(平成28年国民生活基礎調査によると、日本の17歳以下の子どもの貧困率は13.9%)

子どもの権利条約を学び、貧困や児童労働、いじめが悲しいこと、悪いことだからよくない、と感情的に結び付けるのではなく、「権利」が守られていないことが問題であること、すべての子どもは生まれたときから「子どもの権利」を有し、一人の人間として尊重されるべき尊い存在であることを認識し、子どもの権利への理解を深めていきましょう。

★FTCJ 高校生メンバーと作成した冊子
「知ろう!子どもの権利条約 ～子どもの権利条約カード付ハンドブック」
オススメです! ぜひ、ご活用ください。



このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・子どもの権利条約の内容について理解を深める。
- ・すべての子どもには、子どもの権利があり、一人の人間として尊重されるべき尊い存在であることを理解する。

評価

- ・子どもの権利の背景や内容に関して、理解を深めたか。
- ・18歳未満の学習者であれば、自分自身にかかわることであり、子どもの権利は、全ての子どもが持っている大切なものであることが理解できているか。
- ・貧困やいじめの問題が、かわいそうな問題ではなく、「権利」が守られていないことが問題であることを理解しているか。



アクティビティ STEP1-D1 子どもにまつわる社会問題を探せ!

子ども誰もが保証されるべき子どもの権利。しかし、残念なことに、子どもの権利が守られなかったがゆえに起きている悲しい事件や問題も後を絶ちません。子どもにまつわる社会問題から、子どもの権利が守られずに起きている社会問題を考えます。また、生活の中に当たり前に溶け込んでいる、気にしていなかった権利にも気づき、子どもの権利を身近なところから捉え、理解します。



アクティビティ STEP1-D2 少年兵士と子どもの権利条約

コンゴ民主共和国の少年を通じて、子どもの権利条約が奪われている子どもについて深く考えていきます。守られていなかった子どもの権利考えることを通して、子どもの権利条約について触れていきます。



アクティビティ STEP1-D3 スピーチから考える子どもの権利条約

ニュースや、コンゴ民主共和国の少年のスピーチを通して、子どもの権利条約が奪われている子どもについて考えます。子どもの権利がどうしてできたのか、子どもの権利条約の内容をしっかりと学習していきます。

STEP2 目標を決めて、アクションプランをたてよう

アクションを起こす意義

地域社会・国際社会で起きている問題をどうすれば解決できるのか。それは一人ひとりが行動を起こし、小さなアクションをみなで協力して積み重ねていくことが非常に重要です。アクションを起こすことで、さらに問題を深く知り、時にその問題の不条理さを知り、やる気を失うこともあるかもしれませんが、しかし、だからといって諦めるのではなく、社会を変えていくために発信や行動を継続して行うことが非常に重要です。継続して行動を起こしていくにあたり、最初のアクションがづらいものや楽しくないものと感じてしまうと、心理的にも壁ができてしまいます。

そこで、この FTC チェンジメーカー教育プログラムでは、自分の得意なことを活かしながらアクションを起こし、楽しむことを提案しています。STEP2のワークを積み重ね、個人で、グループで楽しくできるアクションを作り出してみてください。

そして、STEP4での振り返りで、社会に起こした変化だけでなく、自分自身の変化にも気づけることを楽しみに、授業を進めてください。

チームで活動する意義

個人ひとりの力ではなかなか進まない社会問題の解決も、様々な人と協力することで、予想以上の大きな力やうねりを生み出し、有効な解決策を生み出すことができると私たちは信じています。なぜなら、人は一人ひとり違いがあり、得意分野も思考も違います。だからこそ、他者と協働することで、相互に強みを活かして弱みを補い、新しい知恵が生み出され、新たな可能性へとつながるのです。

チームで活動することによって、自分だけでは想像することができないアイデアが生み出されたり、自分では当たり前のこととしてやっていたことが、他者の困難を解決するために役立ったりするなど、チームの力をどんどん高めていくことができます。多様な価値観をもった多くの人たちの知識や考え方を共有しあえばしあうほど、革新を生み出すようなアイデアなどを創造する可能性が高まります。

チームで活動するにあたり、特定の強いリーダーが常に支持を出すスタイルを想像する人が多いかもしれませんが、けれども、私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、チームメンバー一人ひとりがリーダーである、という考え方を推奨します。つまり、チームの全員がリーダーシップを発揮することが重要だと考えます。チームの全員で目的を共有し、個々の得意なことを活かしながら、自ら考えつつ、他のチームメンバーを尊重しながら協力して行動することで、課題を解決できる力がより大きくなります。それは、皆が課題解決に向けて貢献するかたちです。大切なことは、一人ひとりが自分を見つめ、また、他者が持つポジティブな面に着目し、メンバー各自が持つ力に気づくことです。自分から主体的に関わり、チームの役に立っていることを実感することで皆が喜びを感じることができるようでしょう。

他者の役に立つということは、自分の喜びにもなり、人生をより豊かにすることにも繋がります。身の回りの課題、地域社会、国際社会の課題を自分ゴトとして捉え、自分から主体的に行動し社会に自分なりの方法で貢献する力を身に付けられるよう、チームでのアクションの実施にぜひ、取り組んでみてください。

STEP2は、グループで進める設計になっています。個人で行う方法は最後に紹介しています。

STEP2-A チームビルディング

グループでアクションを起こすために、チームメンバーである仲間の特徴を理解して、それぞれのリーダーシップに気づき、認め合い、その個性を最大限活かせるアクションプランを立てることが重要です。まずはチームの結束力を高めます。楽しいワークを通して、チーム力をつけていきましょう。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・グループで仲間と一緒にアクションを起こすために、仲間の特徴を理解し、得意なことを活かし協力しあおうという気持ちが醸成できている。
- ・チームで動くときの目標や目的及び必要に応じてルールを設定し、それらが共有され各メンバーが理解していることの重要性に気づくようになる。
- ・人はそれぞれ感じ方や価値観が違うため、相互理解のためにはコミュニケーションをとることが重要であることを理解するようになる。

評価

- ・チームメンバーの違いを強みに役割分担をして、各メンバー一人ひとりの存在が重要であると感じているか。
- ・チームの目標や目的及びルールが共有されるよう明文化するなど工夫しているか。
- ・チームメンバー全員が参加するようなかたちでコミュニケーションをとれるよう工夫がされているか。



アクティビティ STEP2-A1 シュータワー

チームで目標を達成するためには、各チームメンバーがコミュニケーションをとり、役割分担をすることが重要であるなど、チームワークに必要な要素に気づくアクティビティです。紐があれば実施できる手軽に始められる簡単なアクティビティです。



アクティビティ STEP2-A2 ナンバー・タッチ

ミッション（目標）を達成するためには、チームにどのようなルールを設けるとよいか、仲間にどのような配慮があるとよいかを認識することができるようになります。準備は特にする必要がないので、すぐに実施できる手軽に始められる簡単なアクティビティです。

STEP2-B アクションの種類

社会問題の解決に繋がるアクションとはどういったものがあるでしょうか。募金活動やゴミ拾いなどが一般的にすぐに思いつく活動かもしれませんが、それ以外にも様々な種類があります。取り組みたい社会問題に応じて、解決に向けた多様なアプローチ方法があることを知り、アクションの幅をひろげてみましょう。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・アクション=様々な種類があるというイメージを持つことができるようになる。
- ・自分が楽しめるアクションがどのようなものかイメージできるようになる。
- ・些細だと思われるようなアクションも社会問題を解決するためには重要であることを認識できるようになる。

評価

- ・アクションには様々な種類があり、どれも重要であるということが認識できているか。
- ・自分の（またはチームメンバーの）得意なことを活かせるアクションは何か、イメージすることができているか。



アクティビティ STEP2-B | インスピレーションカードゲーム

アクションには、大きく6つの種類に分けられます。その種類を頭に入れて、取り組みたい社会問題や目的に応じてアクションを何にするかを計画できるようになることが重要です。まずは、どんなアクションがあるのか、想像の幅を広げるために、このワークショップを実施することをお勧めします。

▼アクションの種類を紹介

FTC チェンジメーカー教育プログラムで提案するアクションは大きく分けて 6 種類。これらの分類をベースに、自分の得意なこと、好きなことを掛け合わせて、様々なアクションを起こすことができるでしょう。

- ▶啓発活動 …… 他の人に、自分の解決したい問題について知ってもらうために活動する方法
- ▶政治変革 …… 政策として変化を起こすために、政治機関に対して働きかける方法
- ▶自己行動変容… 自分の良くない癖や習慣を、良いものに変えていく方法
- ▶資金調達 …… 個人、企業、財団、政府機関などから、寄付を集める方法
- ▶ボランティア …… 自分の時間を解決したい問題のために使う方法
- ▶物資支援 …… 必要としている人に届けるため、物を集めて支援する活動方法

★FTC チェンジメーカー教育プログラムでは、この 6 種類をベースに様々なアクションキットと事例を紹介しています。詳しくは、【STEP2-C アクションを考える】以降をご覧ください。

STEP2-C アクションプランを考える

児童・生徒（学習者）が仲間同士で、社会問題に取り組むためのアクションを起こすにはどうしたらよいか、そのステップを一緒に学んでいきます。自分たちの好きなことや得意なことを活かしながら興味関心がある社会問題に対してどのようなアクションを起こせるかを考えます。アクションをゼロから考えるのが難しい場合は、まずは FTCJ が提案するキャンペーンキットを利用するのもいいでしょう。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・アクションを起こすために、重要な要素を理解できるようになる。
- ・役割や責任を明確にしてアクションを行う重要性を理解できるようになる。

評価

- ・アクションを起こすための役割分担はどういったものがあり、どう自分が関われるかを積極的に考え、取り組もうとする姿勢がみられるか。
- ・仲間同士の個性や得意なことを活かそうと前向きに考え、コミュニケーションをとろうとしているか。



アクティビティ STEP2-C1 Gift + Issue = Change !

アクションキットの利用をせず、学習者がすべて自由に、ゼロからアクションを考える場合や、個人でアクションを起こす際に特に有効なアクティビティです。自分の興味のある社会問題に、自分のギフト（得意なこと、好きなこと）を使うことで、変化を起こすアクションを考えます。もちろん、複数の仲間でチームを組んでアクションを起こす際にも有効なアクティビティです。



アクティビティ STEP2-C2 S.M.A.R.T 目標を知ろう！

アクションを成功させるためには、まずはプランづくりが大切！ そこで、アクションプランづくりには、S.M.A.R.T の観点から計画をたてることをおすすめします。S.M.A.R.T になっているか照らし合わせながら、それぞれのスタイルに一番合った計画をたてていきましょう。



アクティビティ STEP2-C3 アクション実践6ステップ！（アクションキット編）

アクションを考えると、成功のイメージを持てることは非常に重要です。アクションの1～4ステップがアクションの計画、アクションの5ステップが実行、アクションの6ステップが振り返り。

最初に6つのステップで全体像を見ることで、成功のイメージを持ってもらいます。

※アクションキットを選んで実施する場合の導入やクラスみんなで考えたアクションを起こす場合に有効です。

※アクションキットにより、7つのステップのなっていることがあります。

▼「S.M.A.R.T. 目標」とは———

大きなゴール（最終目的）を達成するためには、達成可能な小さなアクションの積み重ねが不可欠です。それらの小さなアクションを大きなゴールへとつなげるための5つの指標が S.M.A.R.T. 目標です。アクションプランを立てるときに、S.M.A.R.T. 目標に照らし合わせて考えることで、より具体的な道筋が見えてきます。アクションプランを立てるときのコツとして、「確実にできること」、「明確であること」、「簡潔であること」に気を付けるようにしましょう。※詳しくはアクティビティ STEP2—C2 を参照ください。

S.M.A.R.T. 目標

Specific（具体的）：アクションプランに必要な項目を一つ一つ細かく具体的に考えること。

Measurable（測定可能）：何が「成功」や「達成」で、それをどう測るのかを決めておくこと。

Achievable（達成可能）：今置かれている状況で実際に実現可能なのか、現実的なのかを考えること。

Relevant（関連性）：取り組もうとしている社会問題に明確につながっているのかを考えること。

Timeline（タイムライン）：いつまでに実施すべきか、アクションはどの順番で行っていくのかを時間軸で考えること。

▼アクションプランのためのワークシート ———

アクションキットを使わずに独自にアクションを考えて取り組む際は、WE Original Action のアクションキットか、このワークシートを活用ください。（別添）アクションキットに記入する前に、練習として活用することもできます。このシートは社会問題に対してだけでなく、テスト勉強や自由研究を実施する際にも活用できます。

解決したい社会問題

理由（今の想い）

だから、この問題解決のために...

私、_____は、

をします！

誰と？	どこで？	いつまでに？	何が必要？

上記のために、1ヶ月以内に、

を必ず達成します！

*SMART 目標を先に説明して、学習者が具体的な計画を立てられるように応援することをおすすめします。

▼アクションキットの紹介



FTC チェンジメーカー教育プログラムでは、社会問題の解決につながるお勧めのアクションを提案し、時期に合わせてキャンペーンを行っています。

児童・生徒（学習者）のみなさんがキャンペーン参加できるようにアクションキットを用意しています。学習者の興味・関心や授業の進度に合わせ、アクションキットやキャンペーン内容をお選びください。

アクションキット

何かしてみたいけどどうしたらよいかわからない、という子ども達におけ、すぐにアクションを起こせるよう、様々なアクションアクションキットを用意しています。

1つのアクションキットで、『社会問題を学ぶ→アクションを考える→アクションの実施→振り返り、お祝いをする』のFTC チェンジメーカー教育プログラムの4ステップに取り組むことができます。

4コマ～実践可能です。活動証明書の発行などにも対応しております。

<https://ftcj.org/we-movement/weactioncampaigns>



WE Original Action (アクション計画) 自分の得意なことを活かしたアクションを起こそう!

社会問題を考え、実行し、振り返りを行うことができるオリジナルの冊子がこちらからダウンロードできます。SDGsに触れながら、国内外の課題と自分との関係性を見つめ、取り組む課題を見つけ、アクションを起こそう!

[オリジナルアクション詳細ページ](#)



WE Create Change (10 円玉募金) 小さなチカラも集めれば大きくなる! 10 円玉を集めて収入向上の機会を応援しよう!

10 円玉も集めれば、大きな変化を起こすことができる! 5,000 円集めれば、生活に役立つ 1 頭のヤギを送ることができます。身近なところから募金活動をはじめてみよう。

[詳細ページ](#)



WE Share Cards (書き損じはがき回収) 書き損じはがきを集めて命を守るワクチンを届けよう!

ワクチンを一人の子どもに提供するのに必要な支援 (乳児に必要なワクチン一式、病院運営費用等) はハガキ 190 枚! 個人、グループでたくさん集めよう!

[詳細ページ](#)



WE Book Better World (募本活動) 古本を集めて換金して教育の機会を応援しよう!

学用品セットを一人の子どもに提供するのひ必要なのは 3000 円。一緒にアクションを起こして、学用品のセットを子ども達に届けよう!

[詳細ページ](#)



WE Scare Hunger (フードドライブ活動) 眠っている食品で地域の人々のチカラに! フードドライブで食品を必要としている人に届けよう!

お家に眠っている食品を、学校や職場などで集めて、フードバンクへ届け、フードバンクから必要とする方へ届ける活動です。一緒にアクションを起こして、食品を届けよう!

[詳細ページ](#)

★アクションキット内容紹介(一部)



キャンペーンキットには、FTC チェンジメーカー教育プログラムの4つの STEP の要素がすべて入っています。つまり、学習者は、社会問題を学んだ後で、アクションを起こせるようにデザインされているのです。学校の先生など指導者の方々は、学習者にこのアクションキットに含まれるワークシートなどを印刷して配布することで、FTC チェンジメーカー教育プログラムを進めることができます。

学習者が社会問題を学んだあとに、解決につながるアクションに取り組めるようデザインされているので、授業を学んだけれど、結局何もできなかった、ということがなく、持続可能な社会を創る担い手として、学習者は課題に取り組むことができるので、大変おすすめです！

STEP3 TAKE ACTION! アクションを起こそう

STEP3-A アクションを起こすコツと注意点を知る

アクションプランを立てることができたら、あとは実行するのみです。初めてアクションを起こす児童・生徒（学習者）にとっては、この一歩の前に大きな壁が立ちはだかっていることもあるでしょう。なぜなら、アクションを実施するには勇気や決意が必要だからです。その一歩を踏み出すためにも、活動を進める上でのルールを確認したり、やりきるアドバイスを送ったりして、スタートを後押しすることがとても重要です。コラムやキャンペーンキットを活用しながら、学習者のアクションを応援してください。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・モチベーションを高めて、楽しくアクションに臨めるようになる。
- ・安全にアクションを行うために、ルールを確認する。

評価

- ・積極的にアクションを起こすことができているか。
- ・ルールを守り、仲間同士協力し合いながらアクションを実行できているか。



アクティビティ STEP3-A1 アクションの内容を見直そう

アクションを開始していると、計画通りにいかないことが多々あります。そういった場合、最も回避すべきことは、「ただ続ける」ことです。目的の達成でなく、「続けること」が目的になると、気持ちもつらくなり、仲間との関係もギスギスしてしまいます。要所要所で、活動の目的が何であったかを確認していきましょう。

▼アクションを成功させるために —————

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動に参加するメンバーに伝えている「アクションを成功させるためのコツや注意点」があるので、参考にしてみてください。

◆活動をやりきるアドバイス

- ・楽しさを取り入れよう。 例：ミーティングの最初にアイスブレイクゲームをする。
- ・活動の成果に途中途中で目を向けて、成果を実感していこう。
- ・チームで取組む場合は、メンバー同士で頑張っていること、よかったことを言葉にして伝えよう。
- ・無理なく実施ができていくか。時と場合に応じて計画は見直して変更して OK。
- ・楽しむことを忘れずに！

◆活動で守ってほしいこと

- ・活動をする仲間や活動を通じて知り合った人に対し、年齢、人種、宗教・信条、民族性、障害、性的指向、外見を基準に差別や相手を傷つけるような言動はせず、多様な考えや価値観を理解するようにする。もし意図せず相手を傷つけてしまったら、立場に関係なく謝罪をすること。
- ・熱中症対策、交通機関のルール確認、避難経路の確認など、危険防止、安全に十分に配慮する。
- ・チームのメンバーの顔写真や名前などの個人情報を本人の許可なく無断で SNS に載せない。
- ・活動を通じて知り合った人と、活動と無関係な理由で頻繁に電話、メール、チャットをしない。困ったらすぐに先生やおとなに相談する。
- ・子どもとおとなは密室で 2 人きりにならないようにする。
- ・お金の貸し借りは原則しないこと。活動にお金が必要な場合は、どのように集め・管理するかをしっかりと話し合っ

※子どもの権利条約に従い、「子ども」とは 18 歳未満のすべての人と定義しています。18 歳未満の子どもは、権利を持つ主体であり、おとなと同様ひとりの人間としての尊重されるべき存在であり、成長の過程で特別な保護や配慮が必要と考えています。

◆活動を記録するポイント

①成果の記録

- ・キャンペーンを実施した日数
- ・設定した数値目標に対する結果（協力者数や成果の数値）

②プロセスの記録

- ・成果を出すために、どのような行動を起こしたか。簡単だったこと、難しかったことはどんなことか。
- ・一番楽しかったこと、印象に残ったことはどんなことか。
- ・地域の人たちは活動に参加してくれたか。
- ・次回行うとしたら、改善したいことはなにか。
- ・このアクションを通じて、どんな影響を与えることが出来たと思うか。

*アクションキットのポートフォリオの項目もあらかじめ見ておこう！

*写真や動画が撮れる場合

活動中の様子、活動場所の様子、準備したもの、成果物、新聞記事などを記録しよう

STEP4 アクションを振り返り、報告・お祝いしよう

STEP4-A 振り返りをする

アクションの振り返りは継続して活動に取り組むために非常に重要です。振り返りは「反省会」になりがちですが、そうならないように、活動の成果を数値化したり、学習者がどのような学びを得たか、もたらされた変化としてどのようなことがあったかなど、成功体験をポジティブに共有できるようサポートしてください。しかしながら、振り返りをする中で学習者は自分たちのアクションは些細で、自分は無力なのではないかと感じることもあるかもしれません。

フリー・ザ・チルドレンの創設者のクレイグは中学生のとき、社会問題の大きさに打ちひしがれ、自分の活動に意味があるのだろうかと悩みました。児童労働という大きな国際問題に対し、子どもの自分にはできることなど無いのではないかと感じたのです。そんなとき、故マザー・テレサから、「私たちは、いっぺんに世界を変えることはできません。でも、自分にできる小さなことに対して大きな愛をもって取り組めばいつか世界は変わるのです。」という言葉をもらいました。

どんなことも、小さな事象の積み重なりで変化が起きるのです。今回限りで終わらず、長期的な視点を持って、今後につながることを意識するよう、学習者を応援してください。仲間や協力してくれた人への感謝を忘れずに、自分たちの起こした変化をお祝いしましょう！

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- ・成功体験としてお祝いをできるような振り返りをする。
- ・生涯かけてグローバル・シティズンシップとしての素養を身に付ける。

評価

- ・振り返りの時に、文句や反省ではなく、活動の効果に着目できているか。
- ・改善すべきことがあれば、具体的な数値や提案が考えられているか。
- ・よかったことや仲間に感謝していることを伝えられているか。
- ・今後も続けていきたい、何かしたい!という気持ちを育てているか。



アクティビティ STEP4-A1 アクションの報告をしよう

取り組んだアクションを FTCJ ウェブページを通じて、ぜひ報告してください!あがってきた報告をまとめて、皆さんがどのようなインパクトを世界に与えたか、数値化して年に一度発表します。アクションを起こす仲間が世界にはたくさんいます。ぜひ、世界に対して自分のアクションを伝え、ムーブメントを起こしていこう!



アクティビティ STEP4-A2 グループで振り返りをしよう

振り返りシートを使い、自分たちが起こしたアクションが社会や世界にどのような変化をもたらしたか、工夫したことはどんなことか、困難をどう乗り越えたか、そして今回アクションを起こして学んだことを記録していこう。そのシートはポートフォリオとしても活用できます。



アクティビティ STEP4-A3 「あったかメモ」をプレゼントしよう

同じアクションを行った仲間に、感謝の気持ちも込めて、メッセージ(あったかメモ)をプレゼントしよう。具体的な行動を示しながら、その行動がどう嬉しかったかなど、相手の良かったところを書いて、仲間にプレゼントしよう。

▼アクションを起こすことによる変化

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンで活動する子どもメンバーは、実際にアクションを起こすと、様々な変化を感じているようです。頭の中で考えているだけでなく、行動することがまずはとても大切です。そしてそのような自分を受け止めてほめてあげることも非常に重要です。実際に行動を起こすと、「価値観」や「行動パターン」に変化が訪れます。

「目立つことを恐れなくなり、自分で発言することができるようになり増えてきた」(小学5年生)

「やりたいことがどんどん増えていった」(中学1年生)

「社会問題に次々に興味がわき、疑問も生まれるようになった」(高校1年生)

「様々な国に興味を持つようになった。世界で起きている面白いことにどんどん触れていきたい!」(高校2年生)

このような変化が学習者のみなさんにきっと起こります。これからの世界をよりよくするため、グローバルシティズンシップとして今後の活躍を心から期待しています!



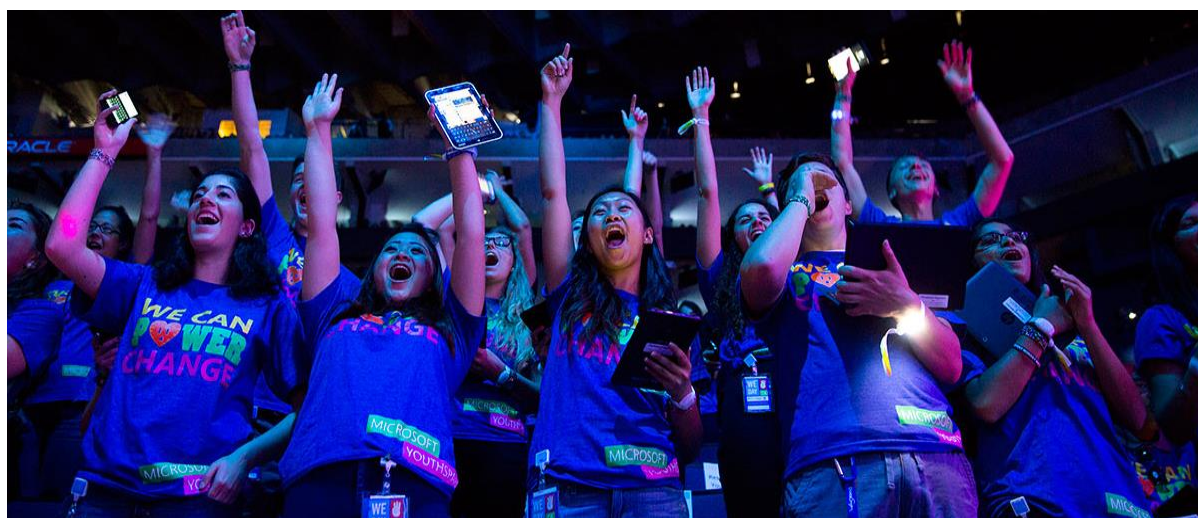
STEP4-B Change Maker Fes に参加する

「Change Maker Fes」とは、国内外の社会問題に対してアクションを起こした子どもたちを無料で招待し、彼らのアクションがいかに意義深く、より良い世界を作るための第一歩となっているかを著名人や活動家を招きながらスピーチやパフォーマンスを通して伝え祝い、さらに今後も継続して社会問題の解決につながるアクションを起こすチェンジメーカーになるよう応援する内容となっています。

「Change Maker Fes」に参加することで、様々な社会問題に触れることができ、それらの問題に対して同世代の仲間がたくさんいることを体感し、子どもによるアクションの事例を相互に学ぶことができます。

このイベントに参加することで、一過性のボランティア活動で終わることなく生涯かけてグローバルシティズンシップとしての素養を身に付けることが期待できます。

SDGsにつながる社会問題に対して、ボランティアや募金活動など何らかのアクションをした、アクションレポートを提出していただくことで、無料で参加することができます。



活動証明書の発行

FTC チェンジメーカー教育プログラムに参加した学校、児童・生徒のみなさんには、活動証明書を発行することができます。FTC チェンジメーカー教育プログラムのサイトより、活動報告をお送りいただくと、その内容に準じた証明書をメールにてお送りしております。

正式な押印や指定の書式がある場合、その旨をご連絡いただき、当団体オフィス(東京都世田谷区)へお越しいただくか、切手を貼った返信封筒を入れて、ご送付ください。指定の書式が煩雑な場合、お時間をいただく他、書き損じはがき等の寄付も合わせてお願いしております。ご協力の程お願い申し上げます。

ボランティア参加証明書

姓 _____

●●●●ボランティア活動
に参加されたことを証明します。

活動内容: ●●●●●●
活動日: 2019年●月●日
時間: ●●●●●●
成果: ●●●●●●

Thank you so much
for your support!

2019年●月●日
特定非営利活動法人
フリースクール・チャイルドレン・ジャパン

チェンジメーカーとなった先輩たち



瀬川 愛葵

15 歳～18 歳まで FTCJ プログラムへ参加

加藤学園暁秀高等学校卒

Soka University of America 卒

現在

性的被害者の相談と政策提言を行う

NGO のスタッフ

●学生時代はどんな活動をしましたか？

FTCJ は、高校 1 年生の私に、「将来」ではなくて「今」行動を起こし世界平和に貢献することができることを教えてくれました。「おとなにならないと世界に大きな変化をもたらすことはできない」という私の中で自然と刻み込まれていた概念が覆されました。「過酷な生活を強いられている子どもたちが世界中にたくさんいるのに、私は何もなくていいのだろうか」と自分に問いかけるうちに、何かアクションを起こしてみようという気持ちになっていきました。そして、子どもがアクションを起こすため、アイデアを FTCJ からもらって、私は高校のクラスメイトや後輩たちと共に 2 年間募金活動を続け、約 74 万円の善意の資金をいただき、モンゴルの子どものためにゲル図書館を建ることができました。

●その後の人生にどのような影響を与えましたか？

リーダーとして試行錯誤を繰り返しながら活動する中で、様々な立場や考えの人々と交渉したり、多くの人をまとめたり、リーダーとして重要な決断を下したり、多くのことを経験しました。それらの経験はすべて、現在自分が人と接したりリーダーシップをとったり、世界の課題について考えたりする上で大きく生きています。高校卒業後はその経験を活かして大学で FTCJ のサークルのリーダーとして活動し、卒業後は児童買春に取り組む NPO 法人に就職しました。これから一生をかけてすべての子どもたちが安心して幸せに生活できる世界の実現に貢献していきたいと思っています。今の私の原点を刻ませてくださった FTCJ に心から感謝です

●メッセージ

子どもメンバーの皆さんには、どこまでも自分の可能性を信じ、自分自身への挑戦を続けながら、「常に自分のアンテナを世界に伸ばし、広い視野を持ちつつも、行動は着実に自分の足元から」をモットーに活動して欲しいと思います。私も皆さんと共にこれからも日々自分に挑戦していきます！



高井 愛

16 歳～19 歳まで FTCJ プログラムへ参加

大学卒業後、児童養護施設に勤務

●学生時代はどんな活動をしましたか？

高校二年生の時に参加した FTCJ のプログラムで、アクションプランを作ったことをきっかけに、社会の課題に対して、何かしらの働きかけをしていくための小さな一歩が踏み出す方法を学びました。また、各地で活動をしているメンバーと交流しそれぞれの思いや考えを知ることができたことが印象に残っています。

●その後の人生にどのような営業をあたえましたか？

FTCJ のプログラムを通して、社会への関心が高まり、私たち一人ひとりが社会を創っていることに気づき、そのために行動するという視点を持つことができました。そのような考え方が、自分の生き方の基礎になっていて、日本の児童福祉をより良いものにしていきたいという想いを強く、現在は児童養護施設で働いています。

●メッセージ

活動をしていて、楽しいこともたくさんあると思いますが、悩んで苦しむこともたくさんあると思います。私は、本当に自分のしていることに意味があるのか、自分は何がしたいのだろうか、と悩むことが多くありました。悩んでも答えがでずに焦ったこともありましたが、答えは活動が終わってからずっと後にでることもありましたが、でも、悩んで自分で考えることを続けたことで、何かしらの変化が自分の中に生まれていき、それが積み重なって少しずつ自分がしたいことやすべきことが見えてくるのだと思います。自分の想いを大切にしながら頑張ってください。応援しています。

先生方の声



世田谷区立桜丘中学校
前校長 西郷孝彦先生

当校では、平成23年度より毎年、1年生が、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの出張プログラムを受けています。大変よく練られたプログラムで、社会課題について子どもたちも体験的に学ぶことができます。そして、「子どもでも世界を変えることができる」という、強いメッセージを受け取った生徒たちは、解決の為の方策を自ら考え自ら行動しようとしています。文化祭や運動会で活動する生徒が毎年います。ぜひ、教育関係の皆様には、出張授業を活用して子どもたちに自ら考える力・行動力を育てる良い機会にして頂きたいと思います。



加藤学園暁秀高等学校
ウェンドフェルト延子先生

生徒たちはこの活動を通じ、海外の子どもたちに共感し、自分たちの目線でできることに取り組む機会となりました。また、そこに至る過程で各種の課題に遭遇し、その性質を分析し解決する工夫や、実践の道筋を見つけ協力し、達成感も味わいつつ、各自が大きく成長することができたと思います。そして活動をみごとに結実させることができました。



明治学院 学院長
小暮修也先生

「子どもが子どもの人権を守る」グループは、Free The Children が世界で唯一です。同じ地球で、同じ時代を生活している子どもたちの未来を拓げていくフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの働きに敬意を持って応援しています。



鳥取城北高等学校
上村魁先生

「自分たちにもできる」「もっと世界のことを知りたい」このプログラムを進めていくうちに生徒から聞こえてくるようになった声です。ある生徒は今まで読んだことのないジャンルの本を熱心に読むようになったり、また、ある生徒は「将来の目標が決まった」と希望進路を自ら提案するようになったり、その表情はエネルギーに満ち溢れています。

このプログラムでは生徒自身が一つひとつの経験を通し、考え、ときには立ち止まり、仲間と意見を交わしながら実践に至ります。したがって、生徒たちは自身の成長を実感しながら学びを深めていくことができました。

TOGETHER WE WILL *change the World*

「持続可能な社会の創り手」のための FTC チェンジメーカー教育プログラム ガイドブック

編 者：認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ)

監修者：唐木清志（筑波大学教授）

この冊子は、日本郵便株式会社『2021 年度日本郵便年賀寄付金配分事業』によって作成されました。

◇FTCJ 事務局連絡先◇ 〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F

TEL 03-6321-8948 / Email info@ftcj.org / URL <http://ftcj.org>



FREE THE
CHILDREN

